

業界再編の中で人材流出に危機感を持った卸売会社が、 企業型DCで従業員の安心感を高めた事例

業種: 卸売業

従業員 26名

選択制DC

導入2年目

同業の統廃合のニュースが続く中、従業員から「うちの会社は大丈夫なんですか」と直接尋ねられることが増えました。退職金制度は見直しから10年以上が経ち、実質的に形だけのものになっていた——管理部長はその事実、あらためて危機感を持ったといいます。

BEFORE 導入前

- 同業の統廃合が相次ぐ業界で、従業員から将来不安の声が上がっていた
- 退職金制度は見直しから10年以上経過し、実質的に形骸化していた



AFTER 導入後

- ✓ 退職金制度を企業型DCへ切り替え、外部積立で「見える化」した
- ✓ 会社説明会で制度改定の背景を丁寧に説明し、従業員の不安払拭につなげた
- ✓ 積立不足のリスクが会社側になくなり、経営の安定性向上にもつながった

導入後の効果(モデルケース試算)

26名中20名

制度加入者数

約4.5万円/月会社の法定福利費
軽減額(試算・全体)**債務圧縮**退職給付債務の
圧縮(財務上の効果)

“ 制度を見直したタイミングで「会社が将来を考えてくれている」と言われたのが、正直いちばん嬉しかった瞬間です。

(管理部長)

「うちの会社は大丈夫か」と聞かれていませんか

退職金制度の見える化は、従業員の安心感に直結します。